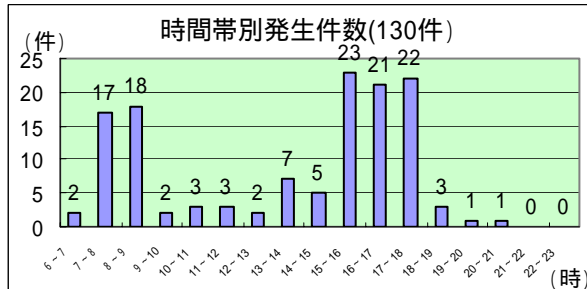
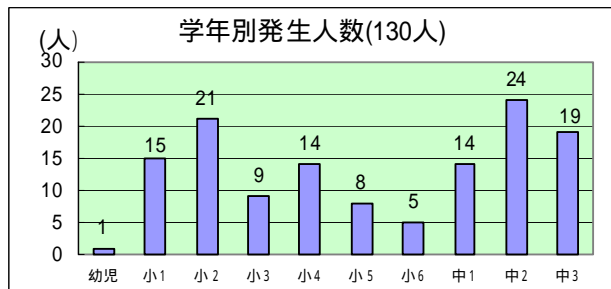
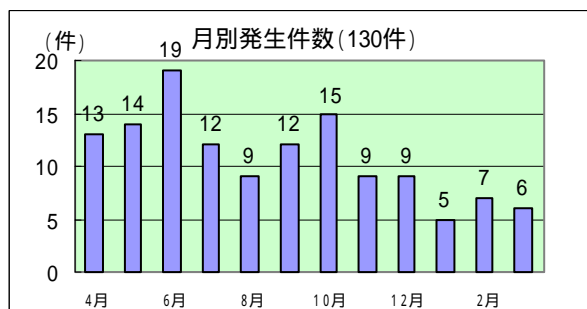
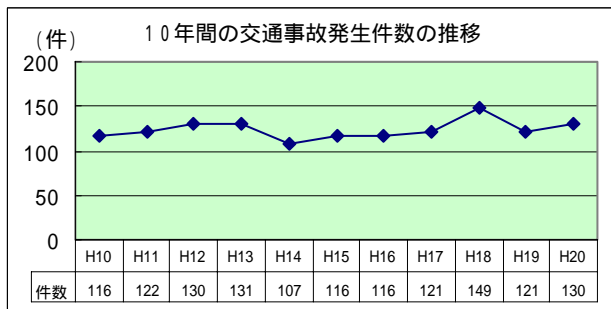


ねらい

自他の生命尊重を基盤として、自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できる資質や能力を高めること及び積極的に安全な環境づくりができるようにしていくことをめざしています。

現状と課題

交通事故の状況 <指導課に報告があった交通事故>



- ・平成19年度減少した交通事故件数ですが、平成20年度は4月以降、増加傾向を示し、年間発生件数が増加しました。重大な交通事故が3件発生し、憂慮すべき状況にあります。
- ・事故発生件数の約72%が自転車乗車中の事故となっています。事故発生原因は、自転車乗車中、歩行中とも飛び出しが最も多く、全体の約44%となっています。
- ・事故発生時は、中学生では登下校時、小学生では下校後や休日に遊びに出かけている時に多く発生しています。したがって、事故発生時間帯は、午前7時～9時、午後3時～6時が多くなっています。学年別発生人数では、小学校低学年と中学校2・3年生の発生が多くなっています。

交通安全教室の実施状況

	実施 校園数	実施対象別校園数			主な実施内容
		全学年	一部学年	子+保護者	
幼稚園	18	16	2	0	講話、ビデオ、絵本の読み聞かせ、紙芝居、人形劇、自転車の乗り方や正しい歩き方の実技、車の衝突実験の実演・体験、シートベルト体験など
小学校	33	22	7	4	
中学校	9	4	5	0	

【連携した関係機関等】各警察署及び各地区交通安全協会（四日市南・北・西）、三重県交通安全協会、四日市市交通安全指導員、自動車学校（四日市、四日市南、川越、菰野）、地域安全ボランティア、ホンダ交通安全キャラバン、ウィーラー イン ジャパン、トラック協会、PTA、など

- ・各校・園では、交通安全教育を年間指導計画に位置付けています。特に、関係機関と連携し、体験活動を重視しながら「交通安全教室」の取組を進めています。実施校・園数が昨年度より増加しました。

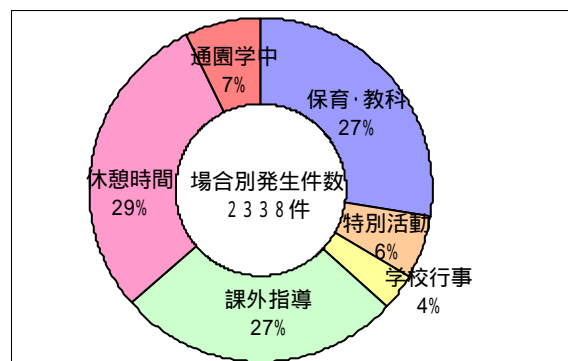
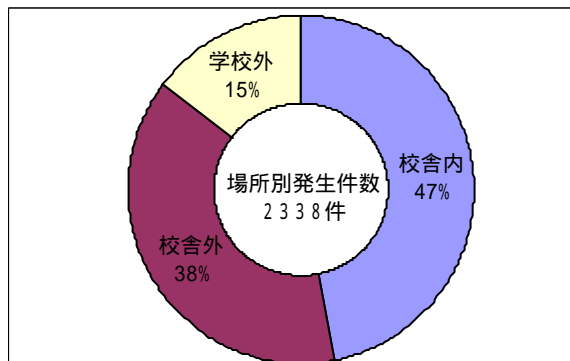
防災・防犯に係る取組状況（実施校数）

	危機管理マニュアルの作成	防犯訓練	防犯教室	安全マップの作成・見直し
幼稚園（24園）	24	22	20	
小学校（40校）	40	28	29	20
中学校（22校）	22	12	13	12

- ・ 全小学校5年生（または4年生）、全中学校1年生において、消防署の指導により、体験活動を取り入れた防火・防災教室を行っています。
- ・ 危機管理マニュアルはすべての学校・園で作成されていますが、危機対応場面が多様化する中、危機管理マニュアルの継続的な見直しが必要となってきました。
- ・ 平成16年度から配布してきた防犯ブザーを平成19年度から防犯笛にかえ、今年度も小学1年生に配布しました。防犯ブザー・防犯笛を常時携帯するように指導の徹底を図りました。
- ・ 子ども防犯等情報データベースによって不審者情報等を共有し、防犯の指導に生かしています。また、緊急な対応が必要な場合は、四日市e-学校ネットにより情報を配信し、子どもの安全啓発に努めます。
- ・ 各校・園では、関係機関と連携して防犯訓練や誘拐防止等の防犯教室、緊急時の引渡し訓練の実施、安全マップの作成等を行っています。実施校・園数が減少傾向にある点が課題です。

学校事故の状況

< 場所別・場合別発生件数 > : 平成19年度日本スポーツ振興センターに報告した事故



- ・ 校舎内（体育館を含む）での事故が約半数を占めています。
- ・ 小学校では、休憩時間や体育科の授業で多く発生しています。登下校中の発生が多いのも特徴です。また、中学校では、運動部の活動中が一番多く、続いて、保健体育科の授業中の発生が多くなっています。幼稚園では、ほとんどが保育時間中での発生となっています。

今後の改善方針

事故発生の原因を分析し、安全に配慮した指導、危機管理マニュアルに基づいた事故後の対応の仕方、施設や環境の整備の改善に努めます。

危険予測能力の向上をめざし、子どもや地域の実態に応じて、関係機関と連携しながら体験活動を生かした安全教育の充実を図ります。また、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等との関連を図りながら、身の回りの安全に対する問題意識をもち、その解決に向けて取り組む力を育む授業などを行い、安全意識の高揚を図ります。

不審者の校内侵入や不審者による声かけ、連れ去りへの対応、地震注意情報発令時の対応等、子どもや地域の実情に応じて、さまざまな場面を想定した訓練や研修会を実施します。